

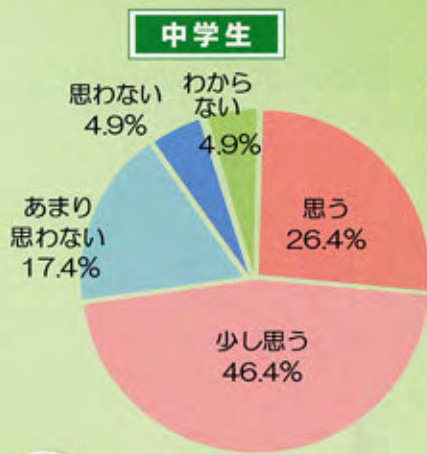
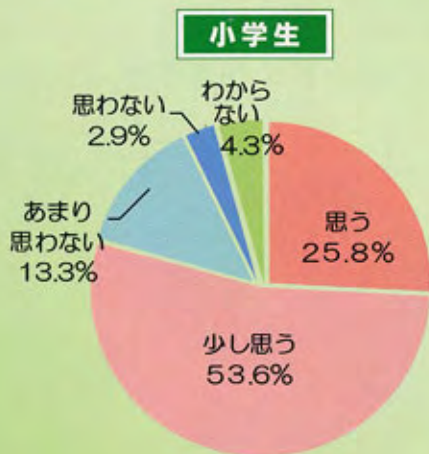
わたしたちのこと... ほんとにわかってる??

子どもたちの健やかな成長のために、大人は何ができるのだろうか。

調査時期: 2009年10月~11月
調査対象: 静岡県内小学5年生558名、中学2年生489名、計1047名



あなたは勉強や運動・部活などよくがんばっていると思いますか？



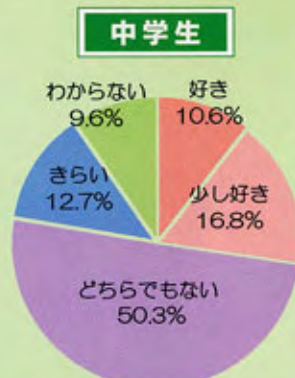
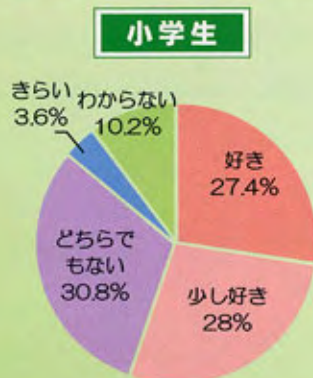
勉強や運動、
がんばってやっていますー！



中学生になるといろいろ考えるんだよね...



あなたは自分のことが好きですか？



自分の存在を大切に思える子どもを育てるために

「自己肯定感」とは、自分が価値ある人間であり、自分の存在を大切に思う気持ちである。静岡の子どもたちは自分のことをどうとらえているのだろうか。

「自分のことが好き」「勉強や運動、部活動などをがんばっていると思う」と答える子どもたちの気持ちを支えているのは、親、家族、地域の人々、教職員など多くの大人からの「認め・励まし」によるものが大きい。

子どもたちの自己肯定感とそれを育てる保護者や教職員のかかわりと友達関係について調査結果をもとに考えてみた。

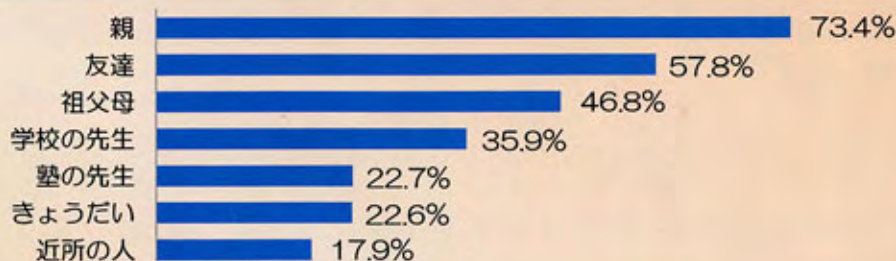
ほめられるとやる気も自信もわいてくるんだ！



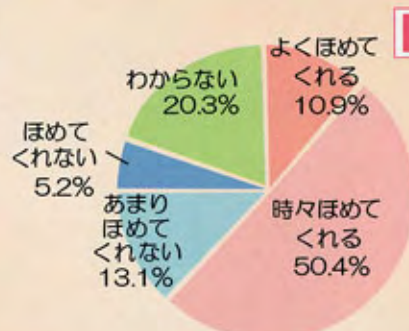
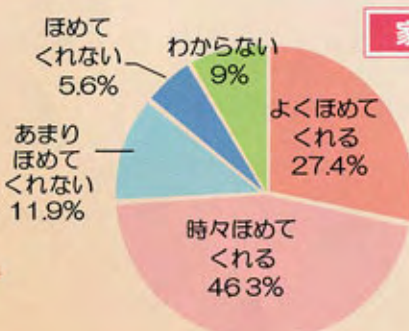
あなたのがんばりを認めたり、ほめたりしてくれる人は誰ですか？

(複数回答可) <小中計>

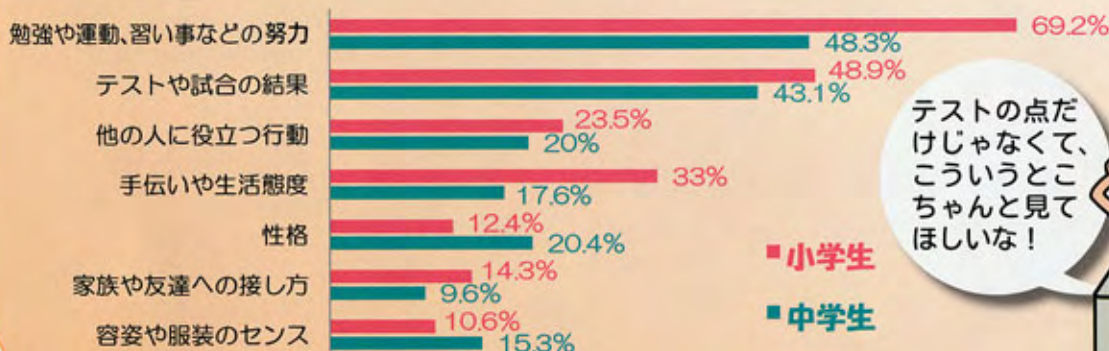
がんばり
ほめられるとうれしいな！



家族や学校の先生はあなたのことをほめてくれますか？ <小中計>



あなたはどんなことをほめられると嬉しいと感じますか？ (3回答まで可)



テストの点だけじゃなくて、
こういうところちゃんと見てほしいな！



■小学生

■中学生

子どもたちががんばっていることに目を向けて

子どもたちの心を支えている人についてたずねた。73.4%が親から認め、ほめられていると答えている。学校の先生については61.3%がほめてくれる(時々ほめてくれるも含む)と答えている。

また、子どもたちはテストや試合などの結果だけでなく、成長の過程や努力を認めてもらいたいと答えている。子どもたちが認めてもらいたいことを見届け、そのよさを伝えれば、子どもたちの自己肯定感はさらに高められるだろう。

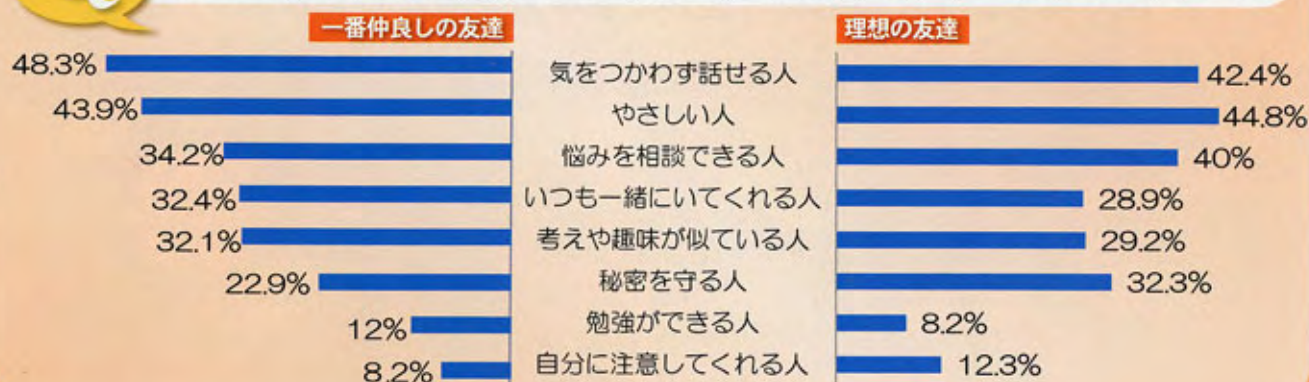
もうひとつ注目すべきことがある。自分のがんばりを認めてくれる存在として57.8%の子どもが「友達」を選択していることである。学校や地域において、友達どうしが認め合う関係がつけられていることが大切だと言える。

小中学生の子どもたちは、どんなことに気をつけながら学校生活を送っているのだろうか？

学校生活の中で大切なのは友達!!だから気をつかうの…



今、1番仲良しの友達、理想の友達はどんな人ですか？(3回答まで可)〈小中計〉



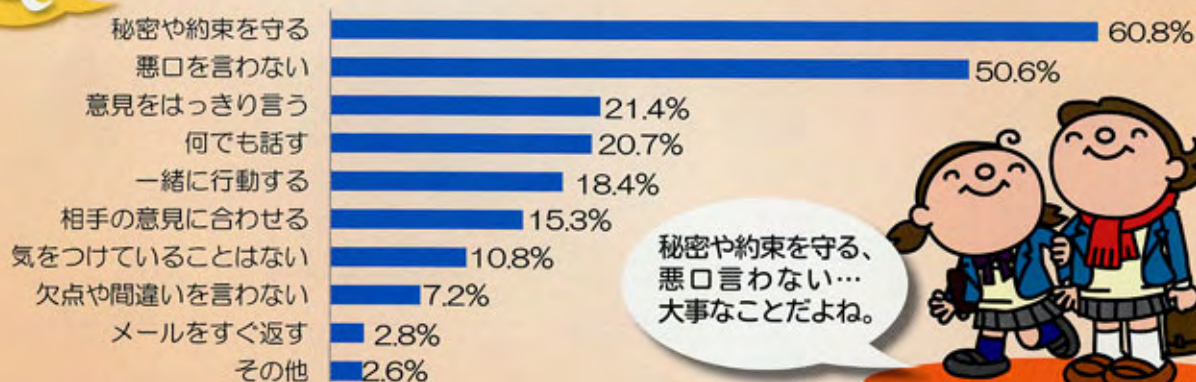
自分に合った友達を見つけている子どもたち

子どもたちは「友達」をどう捉えているのだろうか。

調査にあたっては、「実際の友達と理想の友達の間には相当なギャップがある」と予想したが、2つの質問に対しておむね似たような結果が得られた。子どもたちは、自分を受け入れてくれる友達を見つけ出し、また自分も相手を受け入れながら友達関係をつくっている。「理想の友達は？」の問いに対し、「悩みを相談できる人」「秘密を守る人」「自分に注意してくれる人」が「実際の友達は？」の問いに対する回答を上回った。子どもたちの学校生活を円滑にする友達づきあいだけでは満足しきれない、友達に対する微妙な心理がうかがえる。



友達と仲良しでいるために気をつけていることは？(3回答まで可)〈小中計〉



秘密や約束を守る、
悪口言わない…
大事なことだね。



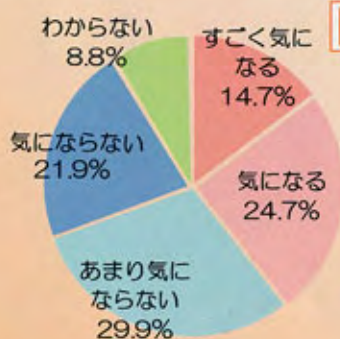
友達関係を維持するためのメンテナンス

友達関係を維持するには常にメンテナンスを必要としている。メンテナンスを怠ると関係にひびが入ったり、きしみが生じたりする。子どもたちもそのことを承知しているので、「仲良しでいるために気をつけていること」を守ろうとする。子どもたちがメンテナンスに必要なこととして上げたことでは、「秘密や約束を守る」「悪口を言わない」が抜きんでて多い。いずれも友人関係を維持するためだけでなく、社会生活を営む上での要件である。子どもたちの感覚は非常に健全だと言える。

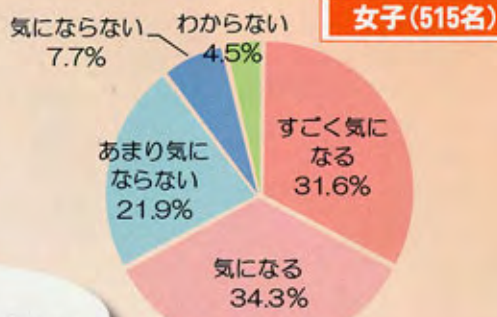
クラスメイトの視線は気になるよ… みんなと仲良くしたいもん



クラスの人からどのように見られているか気になりますか？ <小中計>



やっぱり
気になっちゃうな…

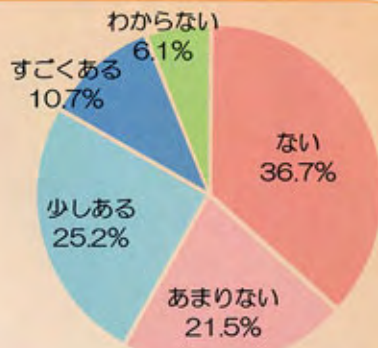


自分はどう見られているのか…性別によって差が

学校で多くの時間を共に過ごすクラスメイトの存在は、子どもたちにとって大変大きなものである。生活環境や価値観が多様化するなど、子どもたちをとりまく環境は大きく変化した。これらの変化は、子どもたちの友達関係の築き方にも大きな影響を与えている。その1つとして、自分への「周りの目」に対する意識がある。クラスメイトから自分がどう見られているか…それを気にしながらクラスの中で生活している子どもたち。調査結果からは、特に女子にとってかなり大きな関心事であることがよくわかる。自分に対する周りの目が、人間関係にどのような影響を与えているかについては詳しい分析を待ちたい。



いじめにあう不安や
心配はありますか？ <小中計>



不安や心配をうちあけられる場所をつくろう

子どもたちの人間関係を考える時、やはり気になるのが、「いじめ」の問題である。本人はもとより親にとっても、教職員にとっても重要な問題だ。「いじめ」によって苦しむ子どもたちをなくしていきたいと切に願っている。

「いじめ」にあうことを心配していない子の方が多いものの、4割近い子どもたちは「いじめ」を気にしながら生活している。子どもたちには、そういう不安や心配を口にしたり、相談したりする人はいるのだろうか。「いじめ」に対する不安の原因はどこにあるのか、さらに調査結果の分析をすすめてい。

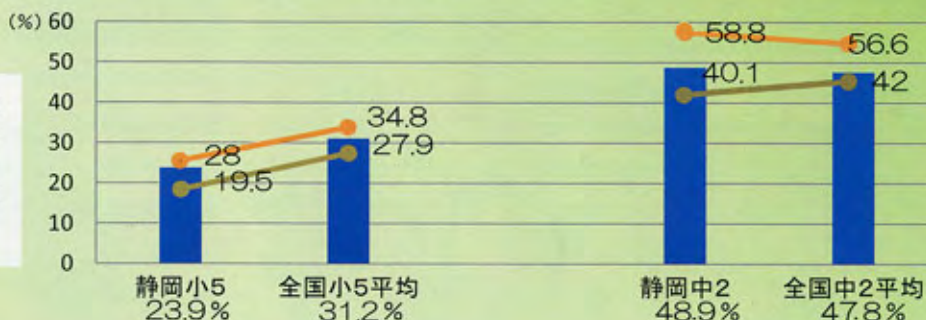
ケータイとはうまくつきあってるよ！



あなたは携帯電話をもちていますか？

● 男子 ● 女子

※全国平均は、ベネッセ教育研究開発センター「子どものICT利用実態調査」(2009年)のデータを参考に作成しました。

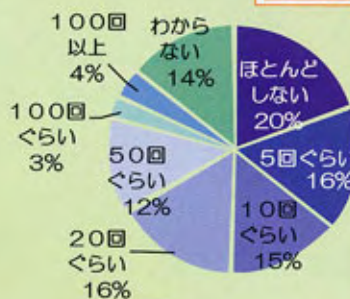
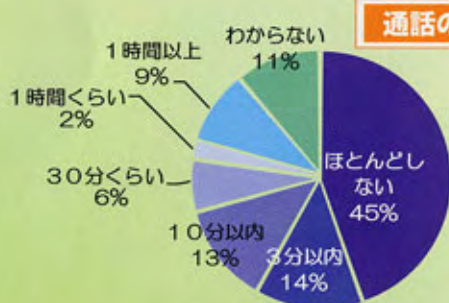


1日にどれくらい携帯電話を使っていますか？

<以下は全て携帯電話をもちている中学生対象>

通話の時間

メールの回数



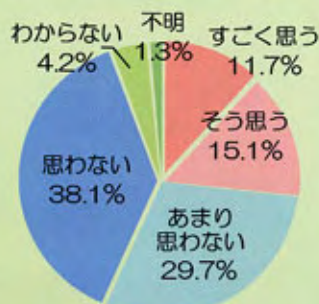
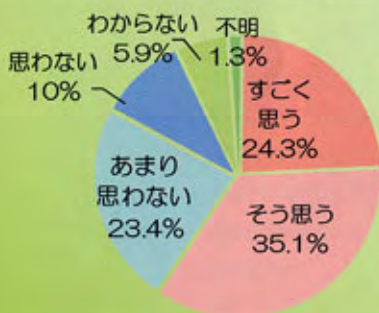
わたしなりに使い方はきちんと考えてるよ！



メールはすぐ返事をするようにしていますか？



電話やメールが来ないと不安になりますか？



持たせる持たせないの議論から一歩前へ

携帯電話の飛躍的な普及は小中学生の所持率にも影響し、子どもたちの人間関係づくりにも大きく影響を及ぼしつつある。静岡でも決して例外ではなく全国平均並みの所持率となっている。大人からすると、携帯電話を子どもに持たせるか持たせないかは悩むところである。「15秒以内にメールを返さないといじめられる」「ケータイ依存は風呂場までケータイを持って行くほどになる」などの言説も多い。

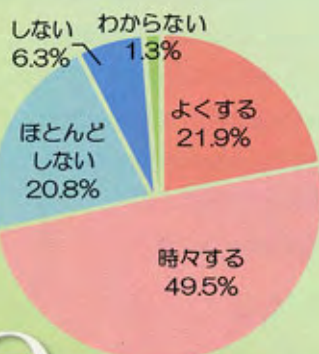
調査結果からは静岡の中学生の意識の中には先の言説のような過度の「ケータイ依存」の傾向は見られない。携帯電話とどうつきあうか…今だからこそ、子どもとともに本気で考える時期が来ているのではないか。

自分の考えをみんなに伝えるって大事だね！

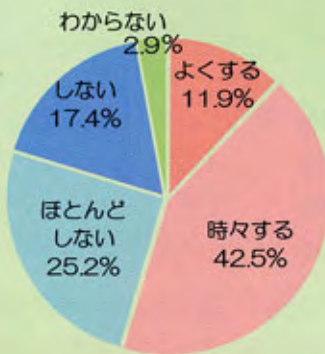


授業やクラスの話し合いですすんで発表しますか？

小学生



中学生

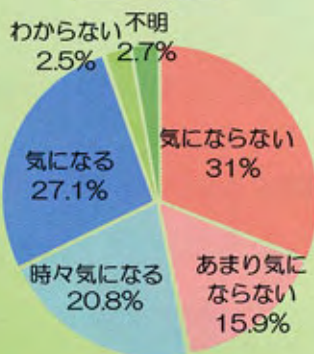


発表すると後で何か言われないうちが気になりますか？

自分の意見を言うことの大切さはわかってるよ



小学生



中学生



誰もが安心して話せる学級・学校づくりを

子どもたちがクラスの中での人間関係を気にしすぎると、お互いが刺激し合って共に伸びていくことができなくなる。そのあたりの子どもたちの意識を聞いてみた。

調査結果からは、子どもたちの授業中の発表に対する前向きな姿勢がうかがえた。このことは、教員が一方向的に知識を詰め込む教育ではなく、子どもたちの考えをもとに、話し合いを通して課題解決にせまる授業づくり(授業改善)にとりこんでいることが大きく関係しているのではないだろうか。たとえ自分の意見に反対する友達がいたとしても、自分が否定されたと捉えず、意見の対立を受け入れている子たちが約半数いる。

安心して誰でも発言できる学級経営、授業づくりをめざしている教員の努力が生きている。

★「子どもの人間関係づくりに関する調査」報告書は2011年3月発信予定

このリーフレットをお読みになったご意見・ご感想をお聞かせください。

STU Institute of Educational Research
静岡県教職員組合立教育研究所

FAX: 054-255-5110

Mail: sier@stu.or.jp (ご意見専用研究所メールアドレス)



↑こちらのQRコードからどうぞ！